

平成 27 年度後期 授業改善アンケートの概要

[I]はじめに

授業改善を目的として、平成 27 年 12 月 7 日（月）～平成 28 年 1 月 14 日（木）の約 4 週間にわたって、学生による「授業改善アンケート」をほぼ全科目で実施しました（*1）。ご協力ありがとうございました。以下では、原則として回答番号の「5（肯定的評価）」から「1（否定的評価）」までを点数とみなして合計し、回答者数で除した「平均点」を項目別に表示しました（*2）。

①プレゼンテーション技術	01. 教員の言葉は全体として明瞭で聞き取りやすかったですか
	02. 板書やスライドなどの文字は見やすかったですか
	03. プリント・スライド・VTR 等の教材は、授業の理解を深めるのに役に立ちましたか
②授業の運営方法	04. 講義は講義細目の通りでしたか
	05. 教員は、私語について注意するなど受講環境の適切な確保をしましたか
	06. あなた自身にとって、各回の授業の量はどうか感じられましたか
	07. あなた自身にとって、この授業のレベルはどうか感じられましたか
	08. 教員の熱意は伝わりましたか
③受講態度の評価	09. 授業方法は、あなたの理解度や到達度に留意し工夫されていましたか
	12. あなたは予習・復習など、授業時間以外での学習をしましたか
④受講結果の評価	10. あなたは授業内容に触発されて、参考書を読むなどの学習意欲をかきたてられましたか
	11. あなたは授業内容をどの程度理解できたと思いますか +SQ 理由を問う副問
	13. 総合的に見て、この授業にどの程度満足しましたか +SQ 理由を問う副問

*1：従来は授業評価アンケートと称していましたが、目的に添って H26 年度から授業改善アンケートの名称に改めました。

*2：問 04・問 06・問 07 は、回答番号が単純に肯定・否定を意味しないため、平均値としての表示はしていません。

[II]検討結果

集計結果と自由記述は担当教員に配布しました。そのうえで、学科などで議論した結果、次のような対応策（アクションプラン）と学生への要望が示されました。大学の授業は、教員と学生がともに新しい知識を求める熱意と努力を共有することで成り立ちます。教員も授業改善に努めますので、皆さんも提言を受け止めて、大学生として求められる受講態度をつくるように努めてください。

●総合教育センター

【センターの対応】

- ・学科によって興味関心や前提が異なることが考えられるので、できるだけ授業ごとに学科に対応した事例を使って説明します。
- ・勉強の仕方を具体的に説明する機会を増やします。
- ・これまで担当者が説明していた個所を、グループワークで進め、問題への学生の関心を喚起します。時間の折り合いが必要ですが、今後も継続していきたいと考えています。
- ・授業課題の負担が過剰であったとは考えていませんが、一つ一つのタスクに専念できるよう、課題の種類は絞る予定です。
- ・英語多読多聴教材の選択肢は継続的に増強していく予定です。
- ・語学科目は性質上、人数が多いと相対的に受講生個人と向き合える時間が減少してしまうので、クラスサイズを小さく保つことは優先的に解決すべき課題の一つと認識しています。
- ・家庭学習をしてこない学生が見受けられますが、学習習慣が身につけていないことも考えられるので、宿題の提出を義務付け、ノート提出などの方法を継続します。
- ・学習の基礎基本となる活動を授業中に取り入れ、苦手意識をなくすよう工夫をしています。

【学生への要望】

- ・不明な点は、遠慮せずに積極的に教員に質問してください。
- ・勉強の仕方の何がわからないかを具体的に説明してほしい。
- ・上野原駅 9 時 26 分発のバスに乗ると 1 限の開始時刻に遅れるという認識を持ってもらいたい。遅刻が原因で不本意な評価をつけるのは教員として忍びない。
- ・英語科目の課題に取り組む際、翻訳サイトを使わないでください。学習につながらず、見方によっては不正行為ともなります。辞書を活用すべきです。
- ・1 年次で単位が取れない学生の再履修での出席不足が目立ちます。きちんと出席することを心掛けて下さい。

●生命環境学部

生命科学科

【学科の対応】

- (1) 授業時間以外の学習について各科目担当教員で対応していきます。具体的には予習・復習を行うよう講義で強く要請し、ノートの提出を求めるなどで改善をはかります。
- (2) 講義は少し高めレベルで行うことが重要ですので、アンケート結果は妥当な評価と考えています。

【学生への要望】

- (1) 自主的な学習の必要性を理解することが肝要です。
- (2) オフィスアワー等の質問時間を有効に利用してください。

自然環境学科

【学科等での対策】

アンケート結果を前の期と比較・検討し、大きく改善した点がある教員から、改善につながったであろう工夫を学科の全教員に紹介してもらいます。この情報交換を通して、学生の習熟度や満足感が増す授業となるよう改善を進めていきます。

【学生への要望】

本学科の特色は実習や実験を通して実践的な知識と技術を培うことにあります。これをより効果的なものとするために、講義による広範な基礎知識の習得は不可欠です。講義には欠かさず出席し、自宅学習も怠りなく取り組んでください。また、疑問や理解の難しい点があれば、講義前後、あるいはオフィスアワーを利用して、積極的に教員に質問をしてください。

アニマルサイエンス学科

【学科の対応】

授業以外の学習を促すために教員にできる授業実施方法の工夫について、教員間で情報交換をし、新たな取り組みを行っていきます。たとえば、授業内容の復習をするために宿題を課すことや、小テストを積極的かつ頻回に実施することを検討します。

【学生への要望】

- ・ 授業以外の学習をあまり行っていないようです。予習復習の方法についてはシラバスにも記載しています。宿題やテストが無くとも、興味がある分野については、図書館を利用して自己学習をしたり、教員に積極的に質問をしたりして理解をより深めることをすすめます。
- ・ スマートフォンなどの機器をメモがわりに使う学生がありますが、講義や実習によっては使用すべきでない場合がありますので、教員の許可や指示を確認してください。

●医療科学部

理学療法学科

【学科の対応】

- ・ 項目 1、2、3、5、8、9、10、11 など「学生からの評価に関する項目」は多くの項目で改善が認められ「4」前後となっています。学科全体として、この状態の維持、改善に努めます。
- ・ 項目 4「講義の細目との一致度」は、改善を認めているものの、依然として他の項目に対して低い値となっております。学生の予習を促す目的においても、引き続き改善を図りたいと考えています。
- ・ 項目 12「授業以外の学習」が向上している理由として、現状で行っている授業時間外での実習室の解放などの効果があると考えています。この取り組みを継続すると共に、授業外学習を希望する学生が実習室に人が多すぎるため学習できないという声も聞こえているので、対応を検討していきます。
- ・ 授業開始時に前回授業分の振り返りとしての小テストの実施や、A4 用紙 1~2 枚程度での授業内容の復習レポート課題を毎週実施するなどによって、学習内容の定着を図るよう工夫しています。
- ・ 小人数のグループ制によるグループワークを中心とした授業や、多数教員によるオムニバス授業、同一時間内の複数教員の同時配置などの多面的な学生への介入を継続して実施していきます。

【学生への要望】

- ・ 講義では、教員の経験などを含む、教科書に書かれていない重要なことが話されます。また、実技は教科書を読むだけで習得することは困難であり、実技系授業では実技を実施する際の要点を含めてお伝えします。そのため、授業には必ず出席してください。
- ・ 「授業の理解度」が不十分な学生が見受けられます。また、「理解不足の原因」が「自分の勉強不足」である学生がいるようです。教科書や授業資料のみならず、大学の図書館などの学内施設での資料を用いた予習、復習などの自己学習に取り組んでください。

- ・「理解不足の原因」が「勉強の仕方がわからない」としている学生が多いようです。わからないままにせず、助言教員、科目担当教員などに相談し、勉強の仕方を身につけてください。
- ・課題レポートなどの提出物については、期限を厳守し、指示された体裁に従って提出してください。
- ・休み時間や授業の空き時間における実習室使用（授業で使用していない場合）を可能としているため、積極的に自己学習に取り組んでください。質問等は学科教員が随時受け付けています。
- ・授業における到達目標を確認した上で、興味がある分野には積極的に取り組んでください。また、理解度の低い授業を放置せず、担当教員との関わりを積極的に構築する姿勢を身につけてください。

作業療法学科

【学科の対応】

授業改善アンケートの結果が、実習などの臨床科目にもつながっているかどうかは疑問ですが、体験等の授業を増やし、臨床で通用する技術なども身に付けられるように考えています。

「理解不足の原因」の項目では、「自分の勉強不足」「勉強の仕方がわからない」という学生が合わせて半数を超えています。対策として、試験結果等を踏まえて助言教員による個別指導を行います。またその指導方法を学科として明らかにしその方法に準じて学生指導を行います。成績によりEクラスに参加してもらい、勉強方法や各教科の復習などを教員が支援する態勢を整えています。

【学生への要望】

- ・授業中はノートをしっかり取ってください。
- ・課題レポートなどの提出物は期限を厳守し、体裁を整え科目担当教員へ提出することを心がけてください。
- ・授業に対する質問、要望などがあれば直接教員に聞きに来てほしい。
- ・毎回の授業において復習が必要であるが、まずは専門用語などの理解をしっかりできるように勉強してほしい。
- ・漠然と勉強するのではなく、自らボランティアなど積極的に参加し、障がい者や利用者の方と触れ合うことで、自分の動機づけをしっかり行ってもらいたい。

柔道整復学科

【学科の対応】

- ① 教員の熱意が感じられる講義内容になるよう工夫します。
- ② 時間的な憂鬱さ（集中力の欠如）を一掃する授業プログラムを考えます。
- ③ 講義内容の重複を避けるためにミーティングを重ねます。
- ④ 学生に対しノートの書き方を指導します。（詳細は口頭で行う）
- ⑤ 十分な準備を伴った講義とするために、テキストの汎用を進めます。
- ⑥ 小テストや中間テストを用いて多目的な評価基準を作っていきます。
- ⑦ 卒後の医療人としての自覚の形成を念頭においた講義内容とします。

【学生への要望】

- ① 講義を受けるための準備としての心構え（予習復習）を行ってください。
- ② テキストの記述にとらわれない疑問点を常に示してください（質問を提起する）。
- ③ 卒後の医療人としての目標設定を決して失わないように自覚してください。
- ④ ノートの書き方がカルテの書き方の第一歩となります。
- ⑤ 医療人への第一歩となる国家試験を念頭に入れた学習を心がけてください。
- ⑥ 特に卒業年次学生は、一生が決定する重要な学年であることを自覚してください。

東京理学療法学科

【学科の対応】

- ・前回調査と比較して全体的に微増しており、対策はおおむね良好であると考えます。今後も引き続き、よりよい授業の実施に努めます。
- ・「授業以外の学習」が2.97ポイントと、低い水準となっています。一方、不満者からの改善意見では、「学習の仕方の指導」が挙げられています。授業以外の学習を増加するためには、ホームワークを課すなど、学習方法の指導が必要とも考えられますので、今後改善に努めます。
- ・遅刻や欠席が目立つ学生の情報は極力学科内で情報を共有しています。助言教員や学年担任、学習支援教員とともに指導を継続していきます。

【学生への要望】

- ・授業時間以外の学習が少ないため、計画を立て、予習・復習をするようにしてください。
- ・アンケート回答時は、自らの授業態度も振り返りながら、授業内容への率直な意見を聞かせてください。

東京柔道整復学科

【学科の対応】

1. 授業以外の学習について、多少ですが自宅学習の時間確保が改善されました。
2. 授業の雰囲気も多少ですが良くなりました。
3. 2年生について、大学に慣れてきた分、授業態度の悪い学生が出てきています。
4. 1年生では高校で学習習慣を身につけていない学生が見受けられます。授業中の内容をノートに書き留めるといった基本的な習慣を身につけさせる指導が必要と考えています。
5. 理解不足の原因はアドバンスセミナーなどで1年生のうちに指導します。

【学生への要望】

1. 自ら学習する能力を身につけるよう努力してください。
2. 助言制度があるので積極的に助言担当の先生に相談して欲しい。
3. 読書習慣（図書館の積極的利用）を身につけてください。
4. 1年から国試を意識した学習準備をすることが肝要です。
5. 仲間を作って、一緒に勉強する時間を設ける（空き時間の有効利用）ことが効果的です。
6. 授業の復習はその日のうちに必ず行なう習慣を身につけてください。

看護学科

【学科の対応】

- ・全科目の評価ではないため、慎重に評価すべきと考えていますが、引き続き学生が専門職を目指す者として自覚を持ち自ら学べるよう、教授方法の向上にむけたFD研修会等を行います。
- ・学習成果の蓄積が実感できるような工夫も検討します。
- ・学生の私語を減らし授業に集中できる目的で座席表を作成し、利用している科目もあります。

【学生への要望】

- ・授業改善アンケートは学生自身が授業への取組みを振り返るものでもあります。自分自身の取組みや学び方を考える機会にしてください。
- ・大学での学習方法を身につけてほしい。
- ・他の学生の学習意欲を削いでしまうような授業中の私語は厳に慎んでください。

医療福祉学科

新設の医療福祉学科の授業改善アンケートは平成28年前期から始まります。

●こども学部

こども学科

【学科の対応】

「授業以外の学習」の得点が他学科と比べ低くなっていますが、指導案の作成、課題曲の練習、造形課題の制作、動物ふれあい教室の準備などを行っていることから、学生が「授業以外の学習」の意味を理解していないのではないかと考えられます。「授業以外の学習」に含めてもよいものについて次のアンケートから各教科教員が説明することにします。

【学生への要望】

正課では授業時間外のピアノの個人練習や図工の居残り制作、そして実習日誌の整理に、課外では動物介在教育や自然体験活動の準備など、授業の合間をぬって、時には夜遅くまで自主的にかつ真摯に取り組むことはアクティブラーニングとして十分評価できます。その努力を今後も継続してほしい。

児童教育学科

【学科の対応】

(施行例、改善したことなど)

- ・どんな相談にも応じて、親身になって一緒に考えるよう努めてきました。
- ・協同学習で授業を展開しました。予習・復習をしやすいように教材を工夫し、教師が教えるのではなく、学生同士での議論を基本的な展開として授業を構築します。課題提示後は、「自力解決」⇒「グループで共有」⇒必要に応じて「全体で共有」⇒時間があるときには「内省」の3～4段階で行っています。その結果、予習・復習に力を入れた者が多くなり、活発な意見交換のできたクラスがありました。また、居眠りする者はほとんどいません。
- ・授業の最初と最後に挨拶をして、授業を受ける気持ちをつけるようにしています。
- ・座席指定は取り入れています、やはり、私語は減り、自由席と比べると静かに聞く環境ができます。

- ・100名の授業ですが、私語の多い学生を指定席にして授業を行っており、比較的静かに一生懸命ノートをとっているようです。

(アクションプランとして)

- ・教員の工夫により改善がみられるので、今後も努力を続けます。
- ・配布プリントへの書き込み箇所を増やしたという対応については、参考にして工夫してみたいと思います。
- ・大教室での授業は、後ろに座る学生との距離感があり、学生の集中がきれてしまうように感じます。致し方ないですが、距離感の縮められるような工夫が必要かと考えます。
- ・授業以外の学習の平均が、あいかわらず低いので、工夫する必要性があります。
- ・提案された対応内容を継続し、地道な努力を積み重ねてゆくことが肝要と思います。
- ・教科書（文科省検定教科書）を購入しない、あるいは授業に持参しない学生が多いのは、授業での利用が少ないためとも考えられるので、積極的に活用してゆきたい。

【学生への要望】

- ・スマホを授業中いじっている学生、充電をしている学生も相変わらずいます。授業に集中してください。
- ・最低限のルール（授業中の私語は慎む、スマホを操作しない、居眠りをしない）は守ってください。
- ・考える力を高めるよう自ら努力してください。
- ・耳で聞いたことをメモする力を身につけることが重要です。家庭で学習する習慣も身につけましょう。
- ・机の上を整頓し、学ぶ姿勢になることが基本です。この基本から始めましょう
- ・授業以外の学習の平均が、あいかわらず低いので予習・復習を心がけてください。
- ・復習、予習の時間を上手に生み出してほしい。
- ・保育・教育者になるという自覚を持ち、様々な分野に興味を向けて学んでください。

幼児保育学科

学校教育学科

児童教育学科を発展的に改組した上記2学科の授業改善アンケートは平成28年前期から始まります。

●教職センター

【学科の対応】

中高の教職課程については、安易に課題を課すことは加重的負担を強いることになりかねません。これまでのように、個別の学習要求や興味関心に合わせたかたちで、授業内で関連書籍を紹介し、興味のある内容について掘り下げられるようなアドバイスを継続することが適切であると考えています。

【学生への要望】

- ①アンケート実施の際、学生自身も授業への取り組みについて振り返り、自身の学び方について考える機会としてほしい。
- ②昨年度との単純比較はできないが、「勉強の仕方がわからない」「専門用語などが難しい」という回答が多く見受けられます。分からなかったことや追加説明を要する内容などについては、授業中・授業後に担当教員に質問をしたり、授業終了時に提出するリアクションペーパーなどに書いて、疑問点等を教員に伝えたりすることを心がけてください。

今年度も「授業改善アンケート」を実施しています。ご協力お願いします。